

## イントロダクション

今年の年頭、私は『大展宏図』という言葉引用し、国も地域も企業も難局を乗り越えつつ、未来への大きなビジョンを描いて、成長へ向かって大きく展開していく1年にしたいと申し上げた。しかし、東日本大震災が発生し、緊急的に被災地の復興支援や震災の影響を受けている市内事業者の相談・支援体制の整備など、当初の計画に無い事業にも取り組んだ。

今回の震災は、東京一極集中のわが国のあり方や、原子力を中心としたエネルギー政策、産業構造、人々の価値観の変化を一層加速させる大きな転換点になるだろう。また、野田首相のTPPへの交渉参加決断も、今後の持続的な経済成長を展望する上で、重要な一里塚であろう。

こうした転換を踏まえ、社会構造が大きく変わり、それにつれて産業構造も大きく変わっていく。本所としては、今年の震災を契機としたこうした転換が加速するという考えを基に、小さくとも地域経済や雇用促進に貢献する内需型の中小企業を数多く誘発させ、地産地消の「内需型モデル都市・京都」を実現するためにも、知恵産業の創造への取り組みをさらに強化していきたい。

来年は復興需要が景気の支えとなり、持続的な景気回復への足固めを行い、わが国の財政再建への第一歩となる1年になるだろう。一方、円高は最大の課題として残り、引き続きデフレ長期化という大きな懸念材料を抱えることになるだろう。また、世界経済も不透明・不安定な経済環境が継続し、見通しにくい景気展望となると想定している。

昔も今も、私たちにはやるべきことがとても多い。しかし、「今やらねばいつできる。自分がやらなければ誰がする」という気概を持って、行動に移す1年にしていきたい。昇り竜のように勢いがあり、生活力あふれる年になることを願ってやまない。

## 京都商工会議所の動き

### 烏丸通街路樹整備に関する要望について（記者配布資料）

本所の創立130周年記念事業の一つとして、烏丸通への街路樹の植樹を計画している。本所が立地する烏丸通を緑豊かな道路として整備し後世へと引き継いでいくため、中央分離帯に高木(ケヤキ)を植栽し、京都駅から京都御苑までの統一した景観の形成と、歩行者、自転車の安全な通行にも配慮した道路整備を進めていただきたく、京都市に対して要望を提出することとした。

要望にあたり、道路整備については京都市にお願いし、烏丸通の丸太町から御池までの中央分離帯に植栽する街路樹については、本所から寄附したいと考えている。京都の環境、景観、安心・安全な道路づくりに配慮した、後世に残るシンボリックな事業となるよう、柏原副会頭を中心に進めていきたい。

### 時雨殿リニューアルオープンについて（記者配布資料）

私が理事長を務めている財団法人小倉百人一首文化財団の中核施設である小倉百人一首殿堂「時雨殿」を、来年3月17日にリニューアルオープンする。

百人一首の多様な世界を体感できる博物館として再出発し、嵐山・嵯峨野の社寺の協力を得ながら、宝物展などの開催も計画している。また、地域のボランティアの協力を得て、周辺の観光案内や歌碑との連携など、嵯峨・嵐山の観光情報発信拠点の機能も持たせる。地域住民などに利用いただけるよう会場の貸出も開始する。

さらに、リニューアルを機に、賛助会員と友の会制度を発足させ、広く企業、団体、個人の方の協力をいただきながら、安定的な財政基盤を確立させ、時雨殿を運営していきたい。

### 門川市長1期目のマニフェストへの評価について（記者配布資料）

門川京都市長の1期目のマニフェストについて、京都経済4団体としての評価を取りまとめた。

特に産業振興の視点を中心に総じて高評価している。

予期せぬ厳しい経済状況が続くなか、門川市長は市政の先頭に立ち、京都府や経済界との連携をより一層強められ、府市協調による中小企業者向けの融資制度の拡充や「知恵産業融合センター」の設置など、不況下での経済の下支えや新産業の創出に積極的に取り組まれたと評価している。

今後の市政に対しては、1期目に着手した施策の確実な実現に向けて、引き続き府や経済界との連携による中小企業支援の体制強化に努められ、新産業・知恵産業の創出やMICE誘致などに積極的に取り組まれることを期待したい。

## 記者からの質問事項

**大阪の知事市長ダブル選挙の結果についての所感と、京都市長選への影響についてどのように考えるか？**

関西が元気になるためには大阪が元気の素になることが必要である。そのために今回、「大阪都構想」が提唱され、破壊と創造による大阪の再生を託されたということだろう。都構想については、東京一極集中の弊害の回避はもちろん、首都機能の双眼化などのスタート台となり、関西経済の再生が実現できるとみている。

今後は、関西広域の視点で、どのように地域の自律的な経済成長や雇用の創出を図るのか、将来を見据えた地域のビジョンを明確に示すことが必要である。その実現に京都経済界としても、連携を通じて貢献していきたい。さしあたって、関西の3府県・3政令指定都市が、行政区域を越えて共同申請している「関西イノベーション国際戦略総合特区」の促進に連携して取り組んでいきたい。大阪の新体制が支障にならないように願っている。

長らく都だった京都の有権者は、時の一過性で無く、じっくりものを考える傾向があり、京都市長選には影響がないだろう。しかし、より候補者の質が問われることとなり、投票率が上らないことも懸念され、候補者のアピールをどうするかが最も重要になるだろう。京都の二重行政に関しては、府市協調とオール京都の連携体制と成果を強くアピールしていく必要がある。

**関西広域連合が発足して1年が経過するが、現状に対しての評価や課題を教えてください。**

関西が共通した施策に各府県が一緒に取り組む体制ができたという意味では、それなりの評価をしている。課題としては、広域連合が、どこまで権限と責任を持てるのかということだろう。都構想がすぐに実現できるとは思えないが、都構想とも上手く連携していくという姿が好ましい。

**産業・社会構造が大きく変化していると指摘されたが、今年の総括と来年の見通しについてもう少し具体的に伺いたい。**

環境保全や資源エネルギーの代替、安心・安全の確保、健康・医療、食糧問題について、大震災を契機にしたニーズが大きく出てくるだろうと考えている。政府の成長戦略の中でも施策に予算付けがなされていくだろう。そういう意味で、従来の大量生産・販売・消費の産業構造が、節電しながら、二酸化炭素を減らしながら産業の成長を実現するという産業構造になっていくだろう。

**烏丸通の植樹はどういったことを狙いとして行うのか、もう少し具体的に教えてください。また、京商ではどれくらいの寄付を募るのか？**

緑化による美しい景観作りが狙いである。二酸化炭素削減の一環にもなるだろう。

京都市がどれだけ予算化するのか、それに応じて本所として寄付を募るということになる。したがって、現時点ではいくらという目途はない。今日の段階ではまず本所として要望をするということを決めたということである。

以上

平成23年11月29日

京都市長  
門川大作様

京都商工会議所  
会頭立石義雄

### 烏丸通街路樹整備に関する要望

烏丸通は、京都市の南北を貫く大通りとして、また、京都の玄関口である京都駅から京都御苑までを結ぶ「行幸道路」として、永年市民に親しまれ、愛されています。

烏丸夷川の地に位置している本所といたしましても、京都のメインストリートである烏丸通を景観に配慮した緑豊かな道路として整備し、後世へ引き継いでいきたいと考えております。

つきましては、烏丸通について貴市の緑化施策、道路整備施策の一環として、下記の通り要望いたします。

追って、本要望が実現されるに際しては、本所としても、丸太町～御池間の烏丸通の整備については、創立130周年記念事業の一つと位置付け、植栽経費等について協力させていただきたく所存です。

#### 記

烏丸通の中央分離帯にケヤキ等の高木を植栽し、京都駅から京都御苑までの烏丸通の統一した景観の形成と、併せて、歩行者、自転車に配慮した安心・安全な道路整備を進めていただきたい。

以上

## 烏丸通 街路樹整備について(参考資料)

1. 趣 旨 創立 130 周年を記念し、緑豊かな美しい京都の町並みを後世に残していくためのシンボリックな事業を行う。
2. 内 容 本所が立地している烏丸通は、京都の玄関口である京都駅から京都御苑までを結ぶメインストリートとして永年市民に親しまれ、愛されている道路である。130 周年を契機に、烏丸通を京都の景観に配慮した緑豊かな道路として整備し、後世へと引き継いでいくため、烏丸通の中央分離帯への樹木の植栽を実施する。
3. 経 緯 2011/5/25 第1回委員会 烏丸通の中央分離帯への植栽を会議所の 130 周年記念事業に位置づけたい旨提案  
2011/8/01 第2回委員会 委員会として記念事業に位置づけることで承認  
2011/9/27 正副会頭会議で報告  
2011/11/29 常議員会で要望書案を提出
4. 今 後 常議員会承認後、要望書の提出。  
京都市において予算計上されることとなれば、烏丸通(塩小路～丸太町間)全体の整備計画のうち、丸太町～御池間の中央分離帯への植栽については、本所として寄附を募っていくこととなる

### 整備概要

御池～丸太町間(中央分離帯)に  
高木(ヤナ)等を植栽予定

自転車走行環  
境改善を図る



<現在の中央分離帯>  
中央帯に高木を植栽する



## リニューアルオープン

平成24年3月17日(土)午前10時~

内覧会(地元・マスコミ・関係者向け) 3月14日(水)~3月15日(木)

リニューアルオープン式典 3月16日(金)午前11時~

## 開館時間

午前10時~午後5時(最終入館 午後4時30分)

## 休館日

月曜日(祝祭日の場合は開館、翌日休館)、年末年始

## 入館料(消費税込)

高校生以上 500円(20名以上団体 400円)

従来の入館料800円より値下げしました

小中学生 300円(20名以上団体 250円)

従来の入館料500円より値下げしました

身体障害者手帳等の提示で入館無料(介護者も同様)

## リニューアルの主な内容

## &lt;1階&gt;

## 常設展示スペース

百人一首の多様な世界を体感できる博物館として、資料展示や100体の歌仙人形や、歌詠みのシーンをジオラマで再現した夢舞台などを展開します

## 企画展示スペース

百人一首に関連特別展や近隣社寺の宝物展を開催します。オープニング企画は

「天龍寺寺宝展~夢窓国師と嵯峨・嵐山(仮称)」(~6月24日)を予定しています。

## 嵐山・嵯峨野観光案内

地域の観光ボランティアなどにご協力頂きながら、時雨殿を起点とした100基の歌碑巡りや嵐山・嵯峨野観光の情報を発信いたします

## ミュージアムショップ、喫茶コーナー

時雨殿オリジナルグッズの開発など、ミュージアムショップを充実させます

## &lt;2階&gt;120畳大広間

## 平安装束体験コーナー

平安時代の調度を背景に、時代衣裳を着装できる体験コーナーを新たに開設します

無料、但し写真シールのプリントアウト希望者は有料

## セミナー、ワークショップ、貸会場

館主催のセミナーやワークショップの他、今回、新たに2階大広間を一般に貸し出すことといたしました

## 工事スケジュール&lt;予定&gt;

平成23年12月下旬 既存設備撤去作業

平成24年1月~2月 リニューアル工事

## オープニング企画&lt;予定&gt;

企画展「天龍寺寺宝展~夢窓国師と嵯峨・嵐山(仮称)」(~6月24日)

## 記念講演会

3月17日(土) 上村淳之氏(日本画家)

3月18日(日) 徳岡邦夫氏(京都吉兆 総料理長)

3月20日(火) 佐々木容道氏(天龍寺 管長)

3月24日(土) 冷泉為人氏(公益財団法人冷泉家時雨亭文庫 理事長)

3月25日(日) 吉海直人氏(同志社女子大学 教授)

3月31日(土) 市田ひろみ氏による十二単着付け(服飾研究家)

4月 1日(日) 三遊亭歌る多師匠(落語家)

## 2階大広間貸し出し

時雨殿2階の120畳の大広間を百人一首に関する事業はもちろん、地元関係者をはじめ、様々な用途の催事等に貸し出します。

### 想定される用途

各種会議、セミナー、ワークショップ、かるた競技大会、講演会、展示会、発表会など  
 但し、大音量や振動を伴う催事については貸し出し不可

料金体系（金額は全て消費税別）

和室（40畳 / 1部屋） 最大3部屋（120畳）利用可能

	午前 9:00-12:00	午後 13:00-17:00	全日 9:00-17:00
一般	10,000	12,000	22,000
地元関係者	8,000	9,600	17,600
賛助会員	5,000	6,000	11,000

- ・17時以降の利用については、別途相談により利用可能
- ・会場使用日の1年前より受付開始

応接室・和室控室 単独での貸出は不可

	午前 9:00-12:00	午後 13:00-17:00	全日 9:00-17:00
応接室（12㎡）	1,000	1,200	2,200
和室控室（9畳）	1,000	1,200	2,200

付帯設備（1日あたり）

	無線マイク （1本）	プロジェクター （1台）	スクリーン （1台）	パソコン （1台）	机 （1本）	座椅子 （1脚）
上段：一般	2,000	3,000	1,000	2,000	100	50
下段：地元関係者 賛助会員	1,600	2,400	800	1,600	80	40

120畳大広間（3分割可能）



応接室



和室控室



## 財団法人小倉百人一首文化財団「時雨殿」会員制度

### 趣旨・目的

時雨殿の今後より充実した事業を展開していくために、広く企業、団体、個人からの支援を受け、運営基盤の確立を図ることを目的に、会員制度を創設する。

### 会員の種別

賛助会員（法人・団体・個人）

友の会（一般・学生）

### 年会費（消費税込）

賛助会員 1口5万円

友の会 1口3千円

### 特典

賛助会員 ・会員証提示で本人及び同伴者2名入館無料

・招待券年間50枚無料贈呈

・各種催事を会員価格で招待

・ミュージアムショップ10%割引

・貸会場50%割引

・イベント情報等の送付

友の会 ・会員証提示で入館無料

・各種催事を会員価格で招待

・ミュージアムショップ5%割引

・イベント情報等の送付

この他、近隣店舗・施設での優待割引などを検討中

### 依頼先

賛助会員 ・京都商工会議所役員議員

・財団関係者、歌碑寄付者 など

友の会 ・リニューアルオープン後に随時募集

< 本件担当 >

財団法人小倉百人一首文化財団（理事長：立石義雄 京都商工会議所会頭）  
（問合先：京都商工会議所 産業振興部内 担当：東浦・高木・才寺）

〒604-0862 京都市中京区烏丸通夷川上ル 京都商工会議所ビル5階

TEL 075-212-6451

FAX 075-882-1103

- 2003年(平成15年)11月 京都商工会議所創立120周年記念事業の一環として、財団法人小倉百人一首文化財団が設立
- 2004年(平成16年)9月 小倉百人一首殿堂「時雨殿」着工
- 2006年(平成18年)1月 小倉百人一首殿堂「時雨殿」開館
  - 12月 小倉百人一首殿堂「時雨殿」の博物館登録認定
- 2007年(平成19年)10月 小倉百人一首文芸苑「小倉百人一首歌碑建立事業」完成
- 2011年(平成23年)2月 「時雨殿」あり方検討委員会発足
  - 4月 時雨殿休館
  - 6月 財団理事会・評議員会で「時雨殿」あり方検討委員会報告が承認
  - 8月 時雨殿リニューアルにかかる施工業者プロポーザル
  - 9月 財団理事会・評議員会でリニューアルにかかる補正予算、施工業者などを承認
  - 11月 第1回「時雨殿」資料収集委員会開催
  - 11月 財団理事会・評議員会で「時雨殿」リニューアルの概要を承認

<時雨殿の目指すべき方向性> 「時雨殿」あり方検討委員会報告より



**【時雨殿の概要】**

- 所在地：京都市右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11
- 施設の性格：登録博物館
- 面積：敷地面積 2,324 m<sup>2</sup> / 延床面積 1,344 m<sup>2</sup>
- 規模：地上2階建（和風建築）
- 総工費：約14億円
- 総入館者数：278,283名（2006年1月～2011年3月）



# 1階展示イメージ

## 百人一首の多様な世界を体感できるミュージアム！

### ・デザイン方針

王朝文化の美意識である“透かし”“重ね”をキーワードに紗幕やガラススクリーンを多様し、和歌の“幽玄世界”を空間デザイン化。



第5章 百人一首～夢舞台(季節の歌)

大型ケース

第2章 百人一首の歌人たち～歌仙人形  
百人一首の歌人たち～解説シート

第5章 百人一首～夢舞台(恋の歌)  
天徳歌合

第6章 百歌線乱( 既存)

ミュージアムショップ  
什器既存

平台

カウンター  
(既存)

2階へ

序章 -  
嵐山・嵯峨野観光案内

序章 -  
百人一首への誘い(既存)

第1章 百人一首のはじまり  
～藤原定家と小倉山荘

受付(既存)

下足コーナー  
(既存)

常設展示スペース

收藏庫

アプローチ

序章 -  
導入グラフィックウォール(既存)

喫茶コーナー  
ベンチ既存×3台  
サイドテーブル×2台(新規)

既存ケース改造 ×3台

第4章 百人一首のひろがり  
～現代に生きる百人一首

第3章 遊びと百人一首  
～競技かるたの誕生

既存ケース改造×2台

第7章- 壁面ケース

第7章 企画展示スペース

企画展示スペース

第7章 -  
4面ガラスケース

## 2階展示イメージ

### 1/1等身大展示で王朝風俗を体感！

#### ・2階大広間の活用

大広間の一間に寝殿の屋内を再現、時代衣裳を着て、王朝文化を体験。

さらにさまざまな催事に対応できる什器（座卓+座椅子）を整備。

・100インチスクリーン

・講演者用机+椅子

・映像機器  
ラック

大広間

山水屏風

茵（しとね）

縹網縁畳

几帳

御帳台

・第8章  
平安風俗体験スペース

平安風俗体験スペース

#### 体験展示アイテム

#### ・第8章 平安風俗体験スペース

- ・御帳台
- ・縹網縁畳
- ・茵（しとね）
- ・山水屏風
- ・几帳

# 門川市政一期目のマニフェスト 「未来の京都まちづくり」への評価

平成23年11月22日

京都商工会議所  
京都経営者協会  
社団法人京都経済同友会  
社団法人京都工業会

## ・この4年間の社会経済情勢の変化

門川市政がスタートした平成20年の京都市内の経済情勢は、米国の金融危機に端を発する世界同時不況や円高の影響等により、景気は急激に悪化し、企業収益は大きく落ち込み、資金繰りの悪化や倒産の増加など企業を取り巻く経営環境は厳しいものとなった。

更に平成21年は、厳しい経済情勢に加え、新型インフルエンザの発生により京都の観光産業は大きな風評被害を被った。その後、国、府、市の懸命な景気対策による需要創出と雇用の下支え効果や外需の影響等により、平成21年の後半から22年にかけては、景気は徐々に回復基調で推移した。

平成23年に入ると、東日本大震災発生に伴う生産の減少や消費の低迷により、景気は急激に悪化した。後半は、震災による供給面の制約がほぼ解消する中で、生産や輸出は増加を続けており、着実に持ち直してきている。

しかし、原子力発電の事故の影響による電力供給の制約に加え、急速な円高の進行、海外景気の減速懸念など景気の下振れリスクが存在しており、景気は予断を許さない状況にある。とりわけ、市内製造業における事業所数、従業者数、製造品出荷額等は、いずれも減少傾向にあるとともに、市内商業者(卸・小売)における商店数及び従業者数も、平成11年以降は減少傾向にあるなど、中小企業者及び商業者を取り巻く経営環境は、極めて厳しい状況が続いている。

## ・門川市長の基本姿勢について

マニフェストに基づく政策推進プラン全384事業に着手し、京都力を育み「共汗」と「融合」によるまちづくりを進められた。

産業政策においては、京都府との協調の下、激動する社会経済状況に的確に対応し、府市協調による中小企業者向け融資制度の拡充を図るとともに、緊急雇用対策を拡大するなど、不況の下で経済の活性化に努められた。

また、守ると同時に、新産業の創出など未来の京都への先行投資としては、「知恵産業融合センター」を創設し、「知恵産業のまち・京都」の推進を図るとともに、これまで課題であった市南部地域の活性化に向け「らくなん進都」に最先端の技術開発を事業化につなげる「技術の橋渡し拠点(高機能性化学研究開発拠点(仮称))」の整備に着手するなど、京都産業の未来に向けた事業を推進された。

更に、京都経済界の提言を受け、全国に先駆けた「京都市MICE戦略」の策定や、府市協調による総合観光案内所「京なび」の開設など、京都ブランドの発信や京都観光の質の向上など都市の魅力を高めるとともに、人と公共交通優先の「歩くまち・京都」の実現や都市基盤の整備を進めるなど、積極的なまちづくりの推進を図られている。

## ． 4 年間の実績評価について

門川市政一期目のマニフェストについて、産業振興の観点から評価できる主な実績は次の通りである。

< 地場産業・中小企業・伝統産業を元気にします。 >

- ・「知恵産業融合センター」を創設(22年11月)。京都の伝統技術と先端技術を融合し、それぞれの技術を効果的に生かした新技術・新製品の開発による新たな「京都ブランド」の創出や企業の販路開拓支援を強化。
- ・中小企業の活力ある経営の維持・発展を支援するため、信用保証協会や金融機関との連携による、府市協調の融資制度の創設や充実を図るなど中小企業のセーフティネット支援を強化(19年度800億円 23年度2500億円)。
- ・各社の経営課題に応じて、経営支援員や専門家による個別経営支援を行う「中小企業パワーアッププロジェクト」制度を創設し、受発注のマッチングや新事業分野への進出支援など、中小・ベンチャー企業支援を強化(21年6月)。
- ・「和装産業活性化戦略プラン」をとりまとめ(22年7月)、「東京ガールズコレクション2010」をはじめ、首都圏での京都産きもののPRを実施するなど伝統産業への支援を強化。

< 先端産業の振興、新産業・知恵産業創出支援で未来の京都をつくります。 >

- ・「ベンチャー企業等目利き委員会」によるベンチャー企業の発掘・認定から「未来創造型企業支援プロジェクト」によるベンチャー企業の育成・支援までを行う一貫したベンチャーサポート体制の構築等により、新産業・知恵産業の創出支援を強化。
- ・先進産業技術の創造を目指す京都市産業技術研究所「京都ものづくり未来館」を開所(22年10月)。
- ・先端光加工技術とバイオ計測技術を軸に次世代産業の創出を図る地域産学官連携拠点「知恵の輪」京都バイオ計測センターを開所(23年7月)。
- ・国のプロジェクトである「知的クラスター創成事業」を推進し、京都の強みを生かしたナノテクノロジーを核に環境・エネルギー分野の新技術の研究開発や事業化を実施。
- ・京都大学内に「京都市医工薬産学公連携支援オフィス」を開設(22年7月)するなど医療関連産業の振興を目指し医工薬産学公連携支援体制を構築。
- ・「京都国際マンガミュージアム」を核に、マンガ・アニメ、映画、ゲーム等コンテンツ産業の振興を強化。
- ・戦略的な産業振興を図る「京都市新価値創造ビジョン」を策定(23年3月)。

< 京の奥深さを体感できる「ほんまもん」の観光と「にぎわい商店街」づくりで、京都の価値を高めて世界に発信します。 >

- ・「観光振興計画2010<sup>+</sup>」を策定(22年3月)するとともに、全国に先駆け「京都市MICE戦略」を策定し、観光振興・MICE誘致を推進。
- ・府市協調による総合観光案内所「京なび」を開設(22年3月)し、観光案内や観光情報の発信機能を強化。
- ・観光庁と市の共同プロジェクト「観光立国・日本 京都拠点」を設置(23年1月)し、外国人観光客の誘致等を推進。
- ・よりわかりやすく京都の町並みに調和した観光案内標識の考え方を示す指針(京都市観光案内標識アップグレード指針)の策定とその整備に着手。
- ・環境共生を追求する商業の推進や買い物弱者への対応など、10の重点戦略と具体的プランを示した「京都市商業活性化アクションプラン2011」を策定(23年3月)。

< ニート、フリーターなど夢をもって挑戦できるまちづくりを進めます。 >

- ・京都市独自の雇用対策事業を実施(20年度～23年度予算累計金額:2億6千万円)。
- ・ニートやひきこもりがちな若者を支援する「地域若者サポーター制度」を創設。
- ・若者の就職支援を図る「京都未来を担う人づくり推進事業」を府市協調、オール京都体制で実施(平成22年度～)。
- ・職場見学、仕事の体験を通じ、仕事に対する興味、理解を深めるための職業教育を実施。
- ・生徒の興味・関心に応じた勤労体験・職場体験、ボランティア体験などを実施(「生き方探究・チャレンジ体験」推進事業)。
- ・若者の就職活動をサポートするとともに中小企業の人材確保に寄与する「京都企業・就職情報データベースシステムを開発(登録企業数、約1300社)。

< 公共交通優先の「歩いて楽しいまち」を実現します。 >

- ・「歩くまち・京都」総合交通戦略の策定と「歩くまち・京都」憲章の制定(22年1月)。
- ・「京都市自動車運送事業経営健全化計画」及び「京都市高速鉄道事業経営健全化計画」を策定(22年3月)。
- ・自動車の流入抑制及び臨時駐車場の設置など四条通の社会実験を実施(22年12月～23年3月)。

< 市民生活と経済活動を支える都市基盤の整備を進めます。 >

- ・ JR山陰本線(京都～二条駅、花園～嵯峨嵐山駅)複線高架化の完成(22年3月)。
- ・ 一般国道162号(川東工区、栗尾バイパス、高雄)、一般国道477号(大布施拡幅)、京都広河原美山線(二ノ瀬バイパス)、西陣杉坂線等の道路網の整備等。
- ・ 京都高速道路斜久世橋線の開通(23年3月)。

< 21世紀の活力を担う南部地域の魅力あるまちづくりを進めます。 >

- ・ 「らくなん進都」(伏見区)で産学公連携による最先端の技術開発を産業化につなげる「技術の橋渡し拠点(高機能性化学研究開発拠点(仮称))」の整備に着手。

## ．今後市政に望むこと

1. 市民の豊かな生活と社会を実現するためには、活力ある京都経済の確立に向けた成長戦略が不可欠であり、市内の生産基盤の維持と新たな発展や内需型産業の育成等に向け、オール京都で取り組まれない。また、現下の厳しい経済情勢を踏まえ、中小企業や商業者等への支援強化に向け、京都市と京都経済界との一層の連携・協力による中小企業支援体制の強化に努められたい。
2. 先端産業の振興、新産業・知恵産業創出分野においては、地域イノベーションクラスタープログラム(旧知的クラスター創成事業)が来年度終了するが、これまでの研究開発の成果の地域展開を一層促進するとともに、産学公が連携して地域のイノベーション戦略を協議・推進する仕組みの更なる強化に取り組まれない。また、アジアを始めとする海外への情報発信や販路開拓、マーケティングなど海外ビジネス展開への支援に取り組まれない。
3. 京都市における平成18～21年の全産業(公務を除く)の開業率は2.6%と全国の開業率3.0%を下回っていることから、規制緩和や税制優遇など起業環境の更なる充実に取り組まれない。
4. MICE誘致においては、受入れ施設・機能など都市インフラの整備を図るとともに、広域的な連携による推進の強化を図られたい。
5. 京都市内の雇用情勢は依然として厳しく、有効求人倍率は、平成20年秋以降の経済情勢の悪化を反映して大きく低下し、その後も低水準で推移していることから、内需型産業の育成・発展といった経済成長を促し、新たな雇用を創出する施策展開等に取り組まれない。
6. 健康、環境、観光などの幅広い観点から、人と公共交通優先の「歩いて楽しいまち」の実現を目指して策定された「歩くまち・京都」総合交通戦略に基づき、LRTなど未来の公共交通の検討やパーク＆ライド施策の通年実施、交通のバリアフリーのさらなる推進、自転車専用道路の整備とマナー向上等に取り組まれない。
7. 京都の産業基盤強化、経済発展促進のためには産業振興を支える都市基盤の整備は不可欠であり、京都第二外環状道路(大山崎～大枝〔仮称〕間)の全線早期完成を図られたい。また、南部地域の魅力あるまちづくりを進めるため、京都市南部地域を中心に企業立地適地の確保に努められたい。

結びに、以上の課題を実現するために、一層の府市協調による施策推進に努められたい。